

# 猿新聞

## 農耕史、積年の課題

日本で農業が本格的に行われるようになったのは、弥生時代のことだと思います。それまでは、木の実を採つたり、弓矢による狩猟の生活。所謂、採集生産・狩猟生産の時代であり、その領域に生息する生物とは共存と競合の関係にあつたと思われます。弥生時代、水稻の栽培が本格的にはじまり、小麦、アワ、ヒエ、小豆などの畑作物も栽培されるようになり、採集生産から米をはじめとする穀物を主要な食料とする食生活に切り替わつていたと思われます。この頃から、人間と野生鳥獣の軋轢が始まり、現在も続いている農業の積年の課題です。

江戸時代は農地も少なが原因の飢饉も見られ、獣害が深刻だった時代といえます。「しし垣」と造られた「しし垣」が西日本各地に今も残っています。「しし垣」とは、害獣の進入を防ぐ目的で山と農地との間に石や土などで築いた垣のことをいいます。また、獣害対策として銃（火縄銃）はもつとも効果的な農具として

用いられ、「威筒」（空砲のこと）の使用については、320年前の鉄砲禁止令発令当初より認められており、役所から一定の条件付きで、農民に貸し出されていました。明治、大正、昭和に入ると、急激に農地が増えています。この時期は、人間が山に攻め上がった動物が奥山に押しやられたわけです。名張市で例えれば、〇〇が丘といふ名のつく団地は、全て野生動物の生息地だったのです。

近年、中山間地は少子高齢化、後継者不足などで耕作放棄地が拡大し、活力は著しく低下しています。中山間地の農業活動が活発だった頃は、その活力で、野生動物を無意識に奥山に押し上げていたのです。現在、中山間地は「スカスカ」状態になつていて、そこにはどん侵入して来ているのだろうと思います。中山間地では、どこに薪をとったり、牛馬がありました。里山は野生動物と人間の境界地で危険地帯と悟つていたも

のと思われます。その里山も日本が高度成長期にはいった1960年代以来、生活環境の変化などで荒廃し、現在では里山としての機能はなしていません。一日も早い里山の復興が望まれるところです。

次に、野生鳥獣を誘引する大きな要因となつているのが餌づけ問題です。意図的な餌づけは比較的狭い範囲ですが、農業の機械化による収穫ロスなど、非意図的な餌づけは広域に広がっています。

対策について、私たちはいろいろな状況のもとで、科学的なデータを並べて、迷い考へています。が、長い年月をかけて培われてきた先人の知恵、執念は、現代の科学を遙かに超えたものがあり、先人に学ばなければならぬことがあります。

MDCでは、その成果のバラツキを多頭数での追払い払いで、解消できないものかと、実地訓練に取り組んでいます。訓練は、サル群を見つけることから始まります。サル群と遭遇しなければ、その日の訓練は出来ず無駄足に終わります。

## 多頭数払い訓練



編集・発行  
山村 準  
tel:0595-63-1725  
Email:  
jyun.y@asint.jp



うに解決していかなければいけないのか」。「最近では人間が檻の中に居るような状況である」。等々、現状を踏まえた悲痛な声が飛び交いました。

一度、壊した自然を再生するには、年単位の時間が必用だと思いますが、これは次世代のためにどうしてもやらなければならぬ課題だと思います。

宇陀・名張地域鳥獣害防止広域対協議会が取り組んでいるMDの活動にも期待をされているところですが、現状では二県を跨ぐ広域をドローーするには頭数不足を感じているところです。

宇陀・名張地域鳥獣害防止広域対協議会では、MD導入以来5年目を迎え、現在21頭のMDが地域の協力を得ながら順調に払い効果向上を目的とした多頭数追いの訓練を行っているところであります。

MDCでは、昨年から払い効果向上を目的とした多頭数追いの訓練を行っているところであります。

宇陀・名張地域鳥獣害防止広域対協議会では、MD導入以来5年目を迎え、現在21頭のMDが地域の協力を得ながら順調に払い効果向上を目的とした多頭数追いの訓練を行っているところであります。

宇陀・名張地域鳥獣害防止広



# モンキードッグ誕生秘話



## 永い野良生活

愛と絆

会い

モンキードッグ一期生の宇陀市室生に住む「宮下ソロモン」推定8歳。名張市安部田に住む二期生の「堀ブチ」推定4歳は、ともにオスの成犬で野良生活の途上、幸運かつ運命的な飼い主との出会いにより保護され、人と犬との「葛藤」の時間を見て信頼と服従の関係を築き、野生動物追い払い犬の「認定証授与」に至りました。

認定犬は人の愛情と根気で生まれます。

# 根気と努力

堀さん。自宅周辺を2年前放浪中に捕獲され、保健所員が「野良生活が長く飼い犬には無理」と云うのを「責任を持つて飼う」と押し問答の末、去年2月我が家に迎えとなりました。

飼い主宮下さんとの出会いは7年前。野良生活中。不自由な後ろ足にめげず3本足で器用に歩いていて、フト、その目が合つたとたん離れられない仲になつた。と、宮下さん。

A medium-sized dog with a brown and white coat is standing behind a chain-link fence. The dog is wearing a black collar and a silver chain. It is looking towards the left of the frame. The background shows a paved area and some grass.

## 参加の動機

は怖がるので近くでは絶対に止めてほしいです。

**ソロモン** とも6年  
新しい生活ですっかり「うちの子」になってリード  
を放した状態でも呼び戻  
しできるようになつていて  
たところ、宇陀市広報で  
「野生動物追い払い犬」  
の募集を知ったのです。  
室生はサル出没よりも鹿  
の被害が多くて、地区的  
皆さんも困つておられた  
ので「ソロモン、頑張る  
うね」と応募しました。

MD育成訓練への参加頭数も年々減少傾向にあります。それに加え、訓練士に依頼しての育成事業の打ち切りで、MDの全地域への適正配置は、困難な状況です。

それを受け、宇陀・奈張地域鳥獣害防止広域協議会協議会では、MD育成のための人材育成により組んでいます。

このような状況下、昨年認定されたMDは3頭と激減しています。

MDは現在まで21頭認定されていますが、昨年は飼い主の「ご不幸」や犬の死亡もありました。また飼い主の高齢化などで現在活躍しているMDは、当初より相当数減っているのが現状です。

MD育成のための人材育成も一朝一夕に成らず、訓練士誕生までには、2年が必要かと思います

次期MD誕生までには、2～3年のブランクを埋め込まなければなりません

MD  
事業の現状

**ブチ** を連れ毎週1回2時間の訓練を半年近く続けるのは大変でした  
が、ブチが他の犬や飼い主さんたちとも交流でき

**第3期認証**

写真は  
昨年認定  
された第  
3期認定  
犬たちです。写真右は、  
伊賀竜口「森さんチ」の  
柴「茶郎」。左は、砥聖  
の「池内さんチ」の黒ニ  
ブ「ピー吉」です。

現在、2頭はサル被審  
の多い竜口、砥取で活躍  
しています。

昨年は、3頭認定さ  
ていますが、残念なこ  
とに1頭の飼い主が逝去さ  
れています。

先日は、大雪で大量の  
融雪剤が道路に散布さ  
ています。

融雪剤の主成分は塩分  
カルシウムで、即ち人工  
の塩です。

道路に散布することに  
より、本来は塩分に乏し  
い野生動物のエリアに住  
む人たちが塩を届けてい  
るという結果になります  
融雪剤散布により、急  
激にシカなどの生息数が  
増えたという。そんな話も  
聞きます。

近頃、獣害対策コスト  
削減のため廉価な中古漁  
網が推奨されていますが、  
漁網には大量の塩分が含  
まれているので、かえ  
まっているので、かえ

## 編集後記

て野生鳥獣を呼び寄せて  
しうという話も聞きます。  
使用に際しては十分な塙  
抜きが必要です。  
※塙抜き漁網も販売され  
ています。



